



TITLE:

經濟學をいかに學ぶか

AUTHOR(S):

編集委員

CITATION:

編集委員. 經濟學をいかに學ぶか. 經濟論叢 1955, 75(4): 202-202

ISSUE DATE:

1955-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/132418>

RIGHT:

經濟論叢

第七十五卷 第四號

經濟學をいかに學ぶか

現代の經濟學と古典……………青山秀夫……（2）

經濟學の歴史的研究の意義……………出口勇藏……（9）

經濟法則の認識について……………吉村達次……（25）

會計學的觀點と會計學的思考……………酒井文雄……（35）

一八三〇年イギリス下院の階級構成……………佐藤明……（55）

ドイツ帝國主義と「結集政策」……………大野英二……（74）

ドイツ共和民主國における經濟發展……………金鍾碩……（93）

公有林野統一に現れた絶對主義的經濟政策の特質
……………鶴嶋雪嶺……（114）

ロック・ウッド著 日本經濟の發展（1868—1938）
……………堀江保藏……（130）

〔昭和三十年四月〕

京都大學經濟學會

經濟學をいかに學ぶか

は し が き

經濟論叢は經濟學の専門誌として日本の經濟學界に古い歴史を持つているが、また學生諸君の中にも多數の購讀者を持ち、その經營のいく分かを學生諸君の負擔において成り立たせている。その經濟論叢が今まで一度も學生諸君に向つて書かれたような論文を掲載したことがなかつたことは、考えてみれば片手落ちのことであつた。

もつとも最近數回研究者と學生諸君との共同で行われた調査研究を本誌に發表したことはあるが、今回は本誌最初の試みとして、新學期に當り、學生諸君の經濟學の學び方について先生方に御意見を述べていただく方針をきめ、學會評議員會の御賛同を得て、特に原論、學史の諸先生の御執筆をわずらわすこととした。これはもとより學界誌としての本誌の性格をゆがめたことではない。經濟學の學び方というようなことは、初歩的な問題であると同時に、何れの研究者も關心をもたねばならぬ最も基本的な問題である。今後有機會があれば、このような論文を掲載し、經濟論叢と學生諸君との結びつきを深めたいと思う。

編 集 委 員